

<記者発表資料①>

令和5年8月24日 記者発表
8月29日 解禁

令和5年8月24日
記者発表資料
総務部 財政課

令和4年度決算見込の概要



三木市 Miki City

目次

- 1 一般会計の決算総括
- 2 一般会計の決算内訳
- 3 一般会計の主な取組
- 4 一般会計の市債残高と基金残高の推移
- 5 財政健全化指標
- 6 特別会計の決算
- 7 企業会計の決算

(参考1) 北播磨総合医療センター企業団の決算

(参考2) 新型コロナウイルス感染症、物価高騰対策事業

(参考3) 財政健全化の取組

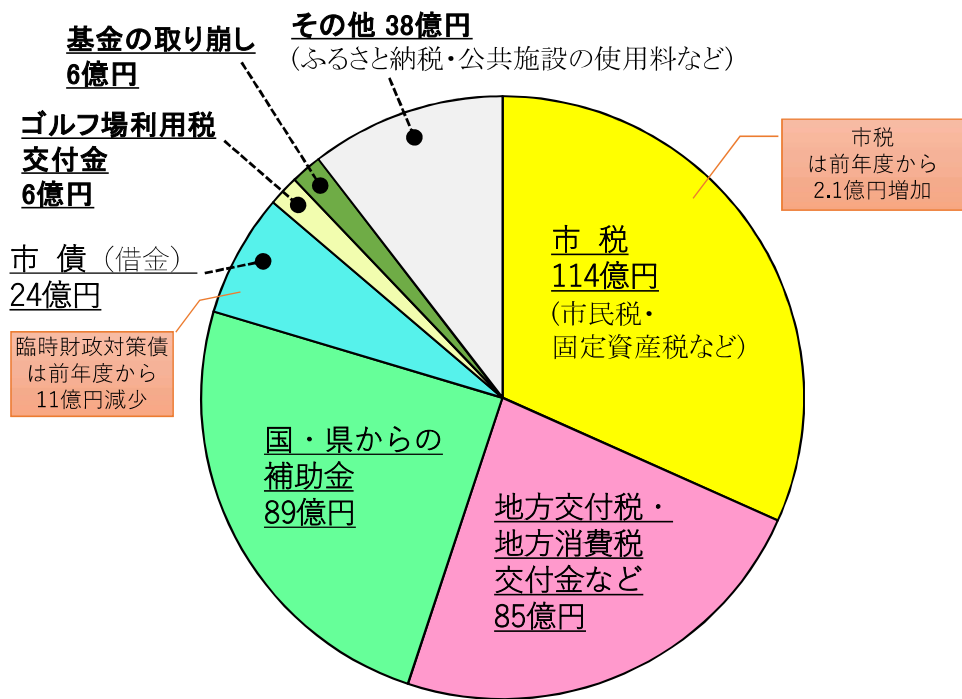
1 一般会計の決算総括

- 令和4年度の決算は、新型コロナウイルス感染症に加え、急激な物価高騰の影響を大きく受けたものとなっており、新型コロナウイルスワクチン接種の実施や住民税非課税世帯及び子育て世帯への給付金の支給など様々な対策を実施したことで、収入・支出ともに過去3番目の規模となった。
- 収入と支出の差引額は5.3億円で、翌年度へ繰り越す財源を差し引いた実質的な収支は3.9億円の黒字となった。

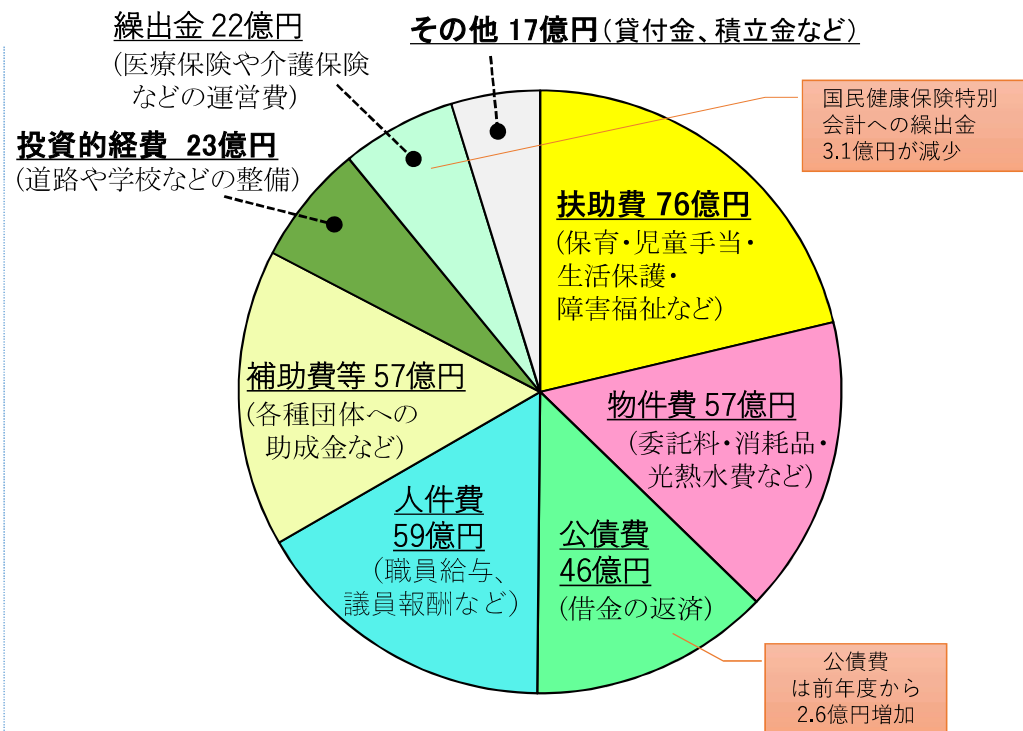
区 分	令和4年度 決算見込額 A	令和3年度 決 算 額 B	増 減 額 (A - B)
収 入 額 ①	362億5,557万円	375億 755万円	△12億5,198万円
(うち基金繰入額)	(5.7億円)	(1.6億円)	(4.1億円)
支 出 額 ②	357億2,751万円	365億1,427万円	△ 7億8,676万円
収支差引額 (① - ②) ③	5億2,806万円	9億9,328万円	△ 4億6,522万円
翌年度へ繰り越す財源 ④	1億3,404万円	5,581万円	7,823万円
実質収支額 (③ - ④) ⑤	3億9,402万円	9億3,747万円	△ 5億4,345万円

2 一般会計の決算内訳

歳入 (362億円)



歳出 (357億円)



決算の特徴

- 国・県からの補助金は、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金に対する補助金や地方創生臨時交付金等が増加した一方で、新型コロナワクチン接種関連の補助金などが減少したことで前年度比12億円減少
- 市債 (借金) は、臨時財政対策債が前年度から11億円減となったことなどで前年度比13億円減少
- ふるさと納税寄附金は、前年度に比べて3.2億円増加し、過去最高の9.4億円

- 補助費等は、出産・子育て応援給付金や国庫支出金の返還金の増加などで、前年度から4億円増加
- 扶助費は、就学前に係る給付費等が増加した一方で、子育て世帯未来応援給付金などの減少により前年度から12億円減少
- 物件費は物価高騰による光熱費の増加や市民生活応援チケット事業の実施により前年度比4億円増加
- 国民健康保険特別会計の財政健全化の取組により、同特別会計への繰出金が減少

3 一般会計の主な取組

○ 新型コロナ対策の更なる充実と物価高騰への対応

- ・ 市民1人5千円の市民生活応援チケットを配布 (3億9,310万円)



- ・ 新型コロナウイルスワクチン接種を実施 (3億5,679万円)



- ・ 住民税非課税世帯に1世帯10万円の臨時特別給付金を支給 (1億1,295万円)

- ・ 低所得の子育て世帯に児童1人5万円の子育て世帯生活支援特別給付金を支給 (6,348万円)

- ・ 住民税非課税世帯に1世帯5万円の電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金を支給 (3億8,490万円)

- ・ 小・中・特別支援学校の2・3学期の給食費を無償化 (1億4,473万円)



- ・ 農業生産者に経営継続支援金、物価高騰対策支援金等を支給 (7,384万円)



- ・ 高校生等のいる世帯に児童1人15,000円の応援給付金を支給 (2,957万円)

3 一般会計の主な取組

○ まちの活性化や教育環境の充実、健康増進や三木ブランド向上に関する取組

・ (仮称) 三木スマートインターチェンジ整備に向けた測量、設計、用地購入、整備工事などを実施 (1億5,572万円)

・ マイナンバーカードの普及、健康増進などを目的とする みっきい健康アプリ の導入 (3,299万円)



・ 道の駅みきでの「金物鷲」の常設展示に係る費用を支援 (500万円)



・ 市内で子ども食堂を運営する団体に運営経費の一部を支援 (51万円)



・ スケートボードパークのセクションの追加整備 (3,610万円)



・ 入院に係る医療費の無償化の対象を「中学生」から「高校生」までに拡大 (2億8,761万円 ※子ども医療費全体の決算額)



・ 小・中学校の統合などに伴うスクールバスの運行 (6,636万円)



・ 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた「三木モデル」事業や小中一貫教育の推進 (162万円)

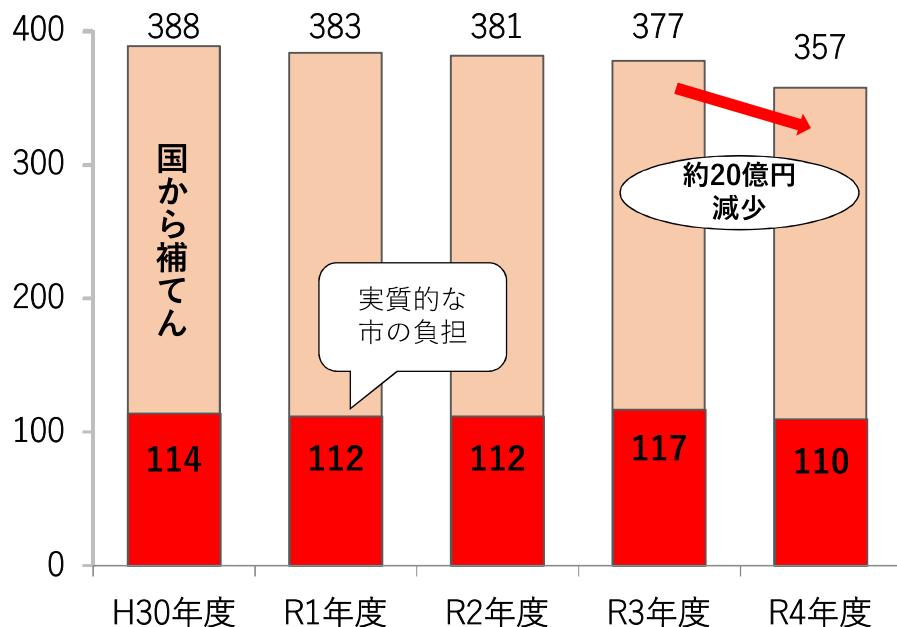
・ 生活に困窮されている世帯等の子どもの学習支援を開始 (117万円)



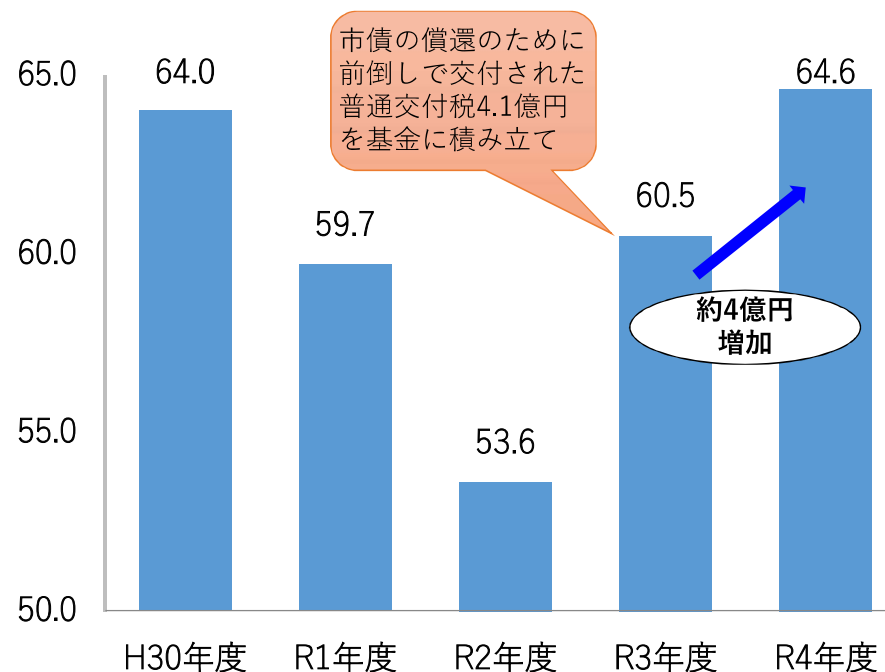
4 一般会計の市債残高と基金残高の推移

- 市債の残高は、国・県補助金の活用などで新たな市債の発行を抑制したことで、市債の発行額が過去に発行した市債の償還額を下回り、20億円減少して357億円となった。
- 基金の残高は、前年度決算剰余金の一部やふるさと納税寄附金など9.8億円を積み立てる一方、ふるさと納税寄附金の活用などのため5.7億円を取り崩し、前年度と比較して4.1億円増加の64.6億円となった。

市債残高（単位：億円）



基金残高（単位：億円）



5 財政健全化指標

- 実質赤字比率・連結実質赤字比率は、黒字決算のため該当なし
- 実質公債費比率は5.7%で、前年度から1.1%悪化
- 将来負担比率は26.8%で、前年度から8.5%改善
- 経常収支比率は、臨時財政対策債の減少などにより5.7%悪化

(単位：%)

区 分	三 木 市			国の定める基準値	
	令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	差 引 (A-B)	早期健全化 基準	財政再生 基準
実 質 赤 字 比 率	—	—	—	12.53	20.00
連 結 実 質 赤 字 比 率	—	—	—	17.53	30.00
実 質 公 債 費 比 率 (3 か 年 平 均)	5.7	4.6	+ 1.1	25.0	35.0
将 来 負 担 比 率	26.8	35.3	△ 8.5	350.0	
経 常 収 支 比 率	93.3	87.6	+ 5.7		

「—」は、黒字決算のため該当なし

6 特別会計の決算

- 特別会計は、全会計が黒字決算
- 国民健康保険特別会計は、「三木市国民健康保険財政健全化計画」に基づく取組を行った結果、0.9億円の黒字
- 介護保険特別会計は、計画よりも介護給付費の伸びが抑えられたこともあり、基金を取り崩さずに0.3億円の黒字

区 分	令和4年度決算					(参考) 令和3年度 実質収支額
	収入額 (A)	支出額 (B)	収支差引額 (C=A-B)	翌年度へ 繰り越す財源 (D)	実質収支額 (E=C-D)	
国民健康保険	90億 958万円	89億2,339万円	8,619万円	0	8,619万円	0
介護保険	72億3,879万円	72億 536万円	3,343万円	0	3,343万円	4,868万円
後期高齢者医療事業	14億9,468万円	14億6,177万円	3,291万円	0	3,291万円	3,109万円
学校給食事業	2億8,257万円	2億8,228万円	29万円	0	29万円	0

7 企業会計の決算

- 水道事業会計は、人口減少などによる水道料金の減少に加え、固定資産除却費等の支出の増加により、当年度純損益は前年度より0.4億円少ない1.6億円の黒字
- 下水道事業会計は、人口減少などによる下水道使用料収入の減少に加え、流域下水道維持管理費等の支出の増加により、当年度純損益は前年度より0.1億円少ない1.1億円の黒字

区 分		令和4年度			(参考) 令和3年度 収支額
		収入額 (A)	支出額 (B)	収支額 (C=A-B)	
水道事業	収益的収支	17億4,152万円	15億7,761万円	1億6,391万円	2億 33万円
	資本的収支	1億 924万円	6億5,463万円	△ 5億4,539万円	△ 6億7,475万円
下水道事業	収益的収支	23億7,768万円	22億6,625万円	1億1,143万円	1億2,333万円
	資本的収支	12億9,833万円	22億5,906万円	△ 9億6,073万円	△ 8億3,848万円

(金額は税抜き)

(参考1) 北播磨総合医療センター企業団の決算

- 令和3年5月の新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定に伴い、病床確保による休床補償を受けたことなどで経常損益は5億円、純損益は4.8億円の黒字となった。
- 看護師不足の影響により令和5年3月から2病棟を閉鎖したことに伴い入院患者数が減少、新型コロナウイルス感染症の影響も重なり、上記の休床補償を除く経常損益は4期連続の赤字となった。

区 分	令和 4年度 (A)	令和 3年度 (B)	増 減 (A-B)
病院事業収益	187.7億円	190.2億円	△ 2.5億円
うち入院収益	108.3億円	104.9億円	3.4億円
うち外来収益	48.5億円	45.2億円	3.3億円
病院事業費用	182.9億円	177.3億円	5.6億円
うち給与費	83.2億円	82.9億円	0.3億円
うち材料費	51.8億円	48.1億円	3.7億円
経常損益	5.0億円	13.2億円	△ 8.2億円
純 損 益	4.8億円	13.0億円	△ 8.2億円

項 目		令和 4年度 (A)	令和 3年度 (B)	増 減 (A-B)
入院	患者数 (1日当たり)	340.3人	350.6人	△ 10.3人
	平均単価	87,167円	81,934円	5,233円
外来	患者数 (1日当たり)	1,043.7人	1,056.8人	△ 13.1人
	平均単価	19,122円	17,688円	1,434円

(金額は税抜き)

(参考2) 新型コロナウイルス感染症、物価高騰対策事業

【一般会計】

(単位:千円)

分類	事業費	財源内訳					主な事業
		国・県補助金	うち臨時交付金	地方債	その他	一般財源	
経済対策・事業者支援	181,142	156,084	123,384	0	0	25,058	農業生産者経営継続支援金、プレミアム付き商品券事業、飼料等の価格高騰を受けた農業者等への支援、公共交通事業者運行継続支援金 など
子育て支援	270,071	270,071	194,674	0	0	0	子育て世帯未来応援給付金、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金、2・3学期分の学校給食費の無償化、高校生等世帯応援給付金 など
生活支援	905,418	902,077	391,900	0	0	3,341	住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金、市民生活応援チケット事業 など
感染拡大防止	471,833	459,534	70,870	0	0	12,299	新型コロナワクチン接種事業、障害福祉・介護施設への抗原検査キットの配布、避難所や学校園等のコロナ対策物品購入 など
その他	10,212	9,190	4,084	0	1,022	0	デジタルセンサーを活用した安全安心なまちづくり事業(民間事業者と連携し、デジタル技術を活用した交通安全対策の実証実験を実施)
合計	1,838,676	1,796,956	784,912	0	1,022	40,698	

【特別会計】

(単位:千円)

分類	会計	事業費 (減免額)	財源内訳(減免に対する支援等)					主な事業
			国・県補助金	うち臨時交付金	地方債	その他	一般財源	
生活支援	国保	(※) 2,082	2,082	0	0	0	0	保険税の減免
		1,233	1,233	0	0	0	0	傷病手当金の支給
	介護 (※) 366	366	0	0	0	0	保険料の減免	
	後期 (※) 175	/	/	/	/	/	保険料の減免 (減収分は広域連合に補助金が交付されるため、財源内訳は空欄としている。)	
合計	(※)	3,856	3,681	0	0	0	0	

※減免については収入の減少額を事業費として計上。

(参考3) 財政健全化の取組

- 令和4年度は「三木市財政健全化計画」（計画対象期間：令和4年度～令和8年度）の取組の初年度であり、収入の確保及び支出の見直しを合わせて「27」の取組を実施。
- 同年度の一般会計決算は、同年度の財政健全化による取組効果を含んだもので、効果額は総額で4億8,865万円（詳細は、本概要の附属書類「令和4年度 三木市財政健全化計画取組実績報告書」を参照）。

計画の基本方針	令和4年度の取組効果額		
	実績(A)	計画(B)	差引(A-B)
収入の確保	2億5,657万円	1億4,200万円	1億1,457万円
支出の見直し	2億3,208万円	4,943万円	1億8,265万円
計	4億8,865万円	1億9,143万円	2億9,722万円

主な取組内容	取組効果額
ふるさと納税（寄附金）	2億 889万円
一般会計から国民健康保険特別会計への赤字補填のための繰出金の廃止	1億9,449万円
市税の徴収率の向上	4,246万円
市職員の時間外勤務手当の削減	751万円

※「取組効果額」は、財政健全化の取組前（令和3年度決算）との比較による。

- 財政健全化に向けた取組については、今後の計画対象期間における各年度の決算状況や社会経済情勢、国・県の動向などを十分に見定めた上で、継続していく必要がある。

- ・収支の赤字補填のための財政基金の取崩しは、令和3年度及び令和4年度と2年連続してなかったものの、こうした状況は一過性的のものであり、現に、今後の中長期の財政収支を見通すと、財政健全化による取組効果を見込んだとしても、歳出が歳入を上回る状況が続くことが見込まれる。
- ・とりわけ、次期ごみ処理施設やひょうご情報公園都市次期工区等の大型事業の整備が本格化する令和8年度以降においては、歳出が歳入を大きく上回り、基金の減少が急速に進むことが見込まれる。